

学科名	生物環境化学科						
科目名	生物環境化学基礎実験						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修						
担当者	荒川剛、藤井政幸、松本幸三、神武洋二郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険薬品の取り扱い方、実験器具の取り扱い方、汎用の分析機器の取り扱い方に関する知識、技術を持っている。</li> <li>・レポート作成上必要な有効数字を正しく使用でき、数値の丸め方が正しくできる。</li> <li>・測定データの取り方、データの整理の仕方を正しくできる。</li> <li>・結果の考察の仕方、レポートの書き方が正しくできる。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/8：導入講義-実験のテキストの配布。本実験の目的。実験の進め方。成績の評価法等の説明。白衣採寸。</p> <p>4/15：実験の為の安全教育-危険物質・有害物質の取り扱い、実験器具の講習-ガラス器具、天秤、化学便覧の使用法など、実験を行うための基礎知識を身につける-実験器具の取り扱いとレポートの書き方についての説明</p> <p>4/22：実験器具の校正とデータ整理-質量と誤差を理解するために-</p> <p>4/29：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/13：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/20：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>5/27：テーマ3以降の実験説明。実験の原理、注意すべき点など。</p> <p>6/3：中和滴定（食酢中の酢酸の定量）-定量分析の基礎</p> <p>6/10：鎮痛剤の化学合成-有機合成化学の基礎-</p> <p>6/17：分離操作（TLC、ペーパークロマト）-分離操作の基礎</p> <p>6/24：分子量測定（酢酸メチルの分子量）-化学量論の理解</p> <p>7/1：工場見学</p> <p>7/8：プレゼンテーション(I) 実験結果の発表会を行う。</p> <p>7/15：追加実験</p> <p>7/22：廃液処理と実験の後片付け</p>						
成績評価基準	定期試験			実技			50%
	臨時試験			部外評価			
	報告書・レポート	50%		プレゼンテーション			
	課題 演習			計			100%
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険薬品の取り扱い方、実験器具の取り扱い方、汎用の分析機器の取り扱い方に関する知識、技術を持っている。:達成した。</li> <li>・レポート作成上必要な有効数字を正しく使用でき、数値の丸め方が正しくできる。:達成した。</li> <li>・測定データの取り方、データの整理の仕方を正しくできる。:達成した。</li> <li>・結果の考察の仕方、レポートの書き方が正しくできる。:達成した。</li> </ul>						
反省点	アンケートスコアやコメントを見る限り、特に問題点等はなかったと考えられる。実験結果報告会のプレゼンテーションの出来が、例年以上に良かった。再三のアナウンスにも関わらず、レポート提出遅延者が数名いた。授業時間内外で、レポート遅延者へのサポートと指導を行う必要がある。						
来年度の計画	レポート遅延者へのサポート、指導を徹底する。ここ数年、工場見学は北九州市のTOTOであったが、来年度は別の会社を検討する。衛生上難しい面もあるが、食品系の会社を検討する。						
授業評価アンケートに対するコメント	特になし。						
履修登録者数	67名	定期試験 受験者数	67名	合格者数	67名	合格率	100%